

「深い愛の物語」本に



下田出身・野沢さんモデル

下田市出身で、手話ができる看護士野沢園子さんと「静かなる」をモデルにした児童書「あなたの声がききたい」聴覚障害の両親に育てられて、が昨年、桜成出版社から発行された。野沢さんは「自分のことが本になるなんて今でも信じられない」と振り返りつつ、あらためて「障害やいじめで悩んでいる人は多いと思うけど、絶対に負けないで」との願いを込める。

浜松出身・岸川さん著

野沢さんをモデルにした「聴覚障害なんです」と身したのは、浜松市出身で茨上まどかり始めたという。減價在任の児童文学作家「あなたの声がききた岸川悦子さん、四年前岸川さんが休職を明して入を著し聴覚障害の夫婦の院した際、病院の担当看護士にも生まれた加奈子。講師が野沢さんだった。小学生の時には「お前のその上野沢さんがつら親は耳が聞こえない。美しい時何度も読み返した」といって生かされているみたいという愛読書が、足に踏んで」といじめられた「害を持つ児童と級友の心」とも、「どうして私だけの打ち明け合いを描いたが、こんなに苦ししい岸川さんの作品だった様を学ぶなら、生かされても重なり「私の両親は聴覚障害者じゃなかった」

「優しく強い母」尊敬



下を向かない生き方伝えたい作家岸川悦子さんの話に「この本の著者も、健康者も同じく「はい」頷くことの大切さ、決して下を向かないお母さんの生き方、優しく伝えたい。出会った。

悩みなながらも、決して突進を絶やさない両親の愛情にはぐくまれて、成長した加奈子さんは、看護の道を目指すことに、結婚を控えた日、携帯電話に最愛の母から「おめでとう、もし神様が一度だけお願いをかなえてくれるなら、あなたの声がききたい」とのメールが届く。

物語を読んだ野沢さんの母井多恵子さんにも、一本の方が実物よりずっとすてきなお母さんでも、うれしかったと手話で表現する。多恵子さんは夫吉田さん(仮名)と下田市自供で理髪店を経営する傍ら、小学校などで講師を務め、手話や障害者への理解を深めても

手話を交え、母多恵子さん(左)と話をする野沢さん。目元は静かな下田で、携帯電話のメールで愛読書を送っている。静岡市内